



については、私をはじめとする市の全職員、市議会議員及び市民の3者が問題の重要性を認識し、馴れ合いを排除した上で、適度の距離を保ち、協働の意識を持たなくてはなりません。

特に市長部局においては、《透明性の確保》及び《市民への説明責任》の意識を常に持ち続けるための意識改革を、徹底的に推進する所存であります。

具体的な実施方法について

は、庁議などの内部の会議等において、事あるたびに認識の再確認を行うと同時に、対処すべき問題点などの意見の徴集をすることとし、一方において、有識者、市民の公募委員等からなる『行政改革推進委員会』においても、この問題等も論議の対象にさせていただきます。パブリックコメント等、市民の皆様のご意見も反映させた改革案を策定していただき、成案ができ次第、実行に移していく所存であります。

また、市議会におかれましても、先般設置されました『下野市議会議員倫理等調査特別委員会』におきまして、市民の皆様から信頼の増す具体策が適切な時期に策定・公表されることをご期待申し上げます。また、市民の皆様には、市および市議会のこの問題の取り組みに対して、更なる叱咤激励を賜りますようお願いを申し上げます。

今後の新たな取り組みとしては、地元医師会と中核病院のご協力をいただき、下野市独自の病診連携（病院と個人開業医、診療所の連携）の推進策や、地域的・年代的デジタルデバイドの解消、一般家庭における情報取得の更なる簡易化、優良企業誘致策の一環としての新たな情報通信網のインフラ整備や電子自治体への取り組み。また、定期的な市民アンケート調査の実施、自治体経営理念の推進、下野市のオンリーワン・ナンバーワンを探そう、創ろう、育てよう。などといった地域の特性を活かし、なおかつ市民の皆様への利便性・福祉の向上を図る事業や行財政改革事業、

自らの住んでいるところを見つめなおすと同時に、他市町村に対してお国自慢ができるものを見つめる、夢のある事業など、様々な施策の展開を環境が整い次第、順次実施していく所存であります。

また、出来る限り早期に、新市のマスタープランとなる、総合計画を策定して、下野市の未来像を市民の皆様に表示し、あわせて施策の実施に当たっては、費用対効果を厳しく検証し、さらにプラン・ドゥ・チェック・アクションのPDCAサイクルにより、方向性と実効性を再評価しながら効率性を高め、より良き方向へ導くと同時に、財政面での無駄を省いていく所存であります。

《結び》

ONE FOR ALL. ALL FOR ONE. 『個人は全体のために、全体は個人のために』という言葉があります。

ラグビーの選手同士が誓い合う言葉であると言われると思います。

チームメイトがボールを持

った仲間を、トライという目標に達することが出来るように支え守っていく。

一人の人間をゴールに到達させることをチーム全体の目標にする。

『個人の幸福は、団体の幸福であり、団体の幸福は、個人の幸福である。』と引用されています。

私は、協働、ともに働くとこの言葉を聴くたびに、ONE FOR ALL. ALL FOR ONE. という言葉を思い浮かべます。言い換えると、下野市民は、下野市のために。下野市は、下野市民のために。となります。

常にこの言葉を胸に刻み、これまでの県議会議員として4期の経験を、これからは、市の舵取り役として市民の福祉の向上に目標を定め、「思いやりと交流で創る 新生文化都市・下野市」建設に全力で取り組んで参る所存でありますので、重ねて、市議会、並びに市民の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます、私の所信表明といたします。